

終戦67年 不戦誓う

戦没者式典で「教訓風化させず」 野田首相式辞

67回目の終戦記念日を迎えた15日、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で開催された。就任後初の参列となった野田佳彦首相は式辞で「戦争の教訓を風化させることなく、語り継いでいかなければならない。不戦の誓いを堅持し、国際平和の実現を不断に追求していくことを誓う」と述べた。

野田首相は、歴代首相と同様に「多大の損害と苦痛を与えた」とアジア諸国への加害責任に言及。東日本

(26面に関連)

大震災にも触れ「復興を通じた日本再生という使命を果たしていかなければならない」と決意を表明した。追悼の対象は、先の大戦で戦死した軍人・軍属約230万人と、空襲や広島、長崎の原爆投下で亡くなった民間人約80万人。

追悼式には、被災地の岩手、宮城、福島3県の140人を含む全国の戦没者遺族4586人と衆参両院議長、最高裁判長官ら各界代表が参列。正午の時報を合図に1分間の黙とうをささげた。天皇陛下は「かけがえない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い

悲しみを新たにいたしました」とお言葉を述べられた。陸軍兵だった兄を沖縄戦で亡くした北海道蘭越町の下条司さん(89)が、遺族を代表して「戦争の苦悩を身をもって体験した私たち遺族は、悲しい歴史を一度と繰り返さないことを固く誓

う」と追悼の辞を述べた。参列した遺族のうち最高齢は、夫がフィリピンで戦死した富山県高岡市の島倉ふみさん(98)。最年少は、曾祖父がビルマ(現ミャンマー)で戦死した千葉県印西市の黒沢大翔ちゃん(4)、優翔ちゃん(4)の双子。



全国戦没者追悼式で黙とうする参列者＝15日正午、東京都千代田区の日本武道館

(2012年8月16日 1面)

☆写真を見て何を感じますか？ また「教訓風化させず」という見出しの意味を考えてみよう。

☆慰霊の日と終戦記念日の違いは何だろうか？ 調べてみよう。